

新評論

2025
5・6
No.349発行所 © 新評論 2025年
〒169-0051 新宿区西早稲田3-16-28
TEL03-3202-7391 FAX03-3202-5832
http://www.shinhyoron.co.jp
e-mail: shrn@shinhyoron.co.jp
振替 00160-1-113487 価格税込

スウェーデンで公式に認められた5つの少数民族の旗。同国は共生に向けて、隔離でも同化でもない「ラーゴムなポイント」を探り続けている

自分も他者も尊重しつつ、何ごとにつけ「ほどほど」をよしとする哲学の奥深さ。幸福度ランキング上位国に学ぶ国家像

ラーゴムが描く社会

スウェーデンの「ちょうどよい」国づくり

鈴木賢志

◆ジャンル: 北欧の福祉・社会

スウェーデンには、人々に愛されてきた「ラーゴム」という考え方があり。自分を大切にしつつ、周りのことも考えて多くを求めすぎない、「ちょうどよい状態」を美徳とする一種の行動規範で、この国の人々のライフスタイルの基本となっている。この「ラーゴム」の精神が、個人だけでなく、スウェーデンという国の政治や経済、社会システムにも力強く息づいているのではないか——そう考え、本書を著すことにした。

スウェーデンは国際的に見ても非常にユニークな国である。「高福祉高負担」という観点からはアメリカの対極に位置するが、経済的な豊かさではアメリカを上回っており、ご存じのように国民の「幸福度」は非常に高い。

日本を含む多くの社会では、「高福祉高負担は勤労意欲を阻害し、働くだけ損だと考えて怠ける人が増える」という通念が根強い。しかしそうした通念をひっくりかえすようなことがこの国では日々起きている。その謎を解くカギが「ラーゴム」にあると断言したい。

本書では、現在のスウェーデンを形づくっている社会システムや政治・経済・

ビジネスの仕組み、先進的な環境政策などを「ラーゴム」の視点から読み解くことで、この国を総合的に理解することを目指した。スウェーデンや北欧に関心のある人が、各専門領域に踏み込む前に、まずはこの国の全体像をつかむためのテキストとしても活用できるものになっている。

いま世界的に、社会の中に分断や対立をあえてつくり出し、それを煽ることで支持を拡げるといった手法がアメリカを中心に蔓延している。スウェーデンが歩み続ける「ラーゴム」の道は、その有力なアンチテーゼとなるはずだ。むしろ、そこには悩みも揺らぎもあるわけだが、それも含めて、日本社会の今後のあり方を考えるヒントともなるだろう。

(すずき・けんじ)

ISBN978-4-7918-1291-0 6月末日
四六並製 予二二四頁 予二四二〇円

刊
スウェーデンの小学校社会科の
教科書を読む
評
「日本の大学生は何を感じたのか」
好
ヨーラン・スバネリッド／鈴木賢志＋
明治大学国際日本学部鈴木セミ 編訳
一九八〇円

著者 明治大学国際日本学部教授・学部長、一般社団法人スウェーデン社会研究所代表理事・所長。1997年スウェーデンに渡り、ストックホルム商科大学欧州日本研究所に約10年間勤務。日本と北欧の社会システムの比較研究を専門とする。



夜桜に映える東寺の五重塔（国宝）。9世紀の創建以来雷や不審火で数度焼失し、現在の塔は徳川家光の寄進で1644年に再建されたもの

読めばあなたも「ちょっと京都通」！ 1200年の古都に平安京の姿を追い求め、その魅力に移住者目線で綴る

ちょっと自慢できる京都の話

「平安京創生館」で知る都

勝又郁子

◆ジャンル：歴史紀行／古都散歩・京都の歩き方

京都は、つくづく不思議なまちである。誰もが知っている「一二〇〇年の都」であり、三〇年以上前、清水寺のポスターからはじまったJR東海の「そう、京都、行こう」キャンペーンが今もなお、四季折々に変化する寺社の姿を見せて旅心を誘っている。だが、人を惹きつけているのは「眺め」だけではないだろう。眺めの向こうにある何か——平安の世からずっと、泰然と「時の流れ」を受け入れてきたその「しなやかさ」ではないだろうか。

京都好きとはいっても京都通を自任するには到底及ばず、漠然と寺社をめぐる観光客にすぎなかった私が、京都に住みはじめて六年になる。手探りの「平安京探し」のきっかけは、「古典の日記念 京都市平安京創生館」（中京区）に展示されている復元模型を見たことだった。

「京都のどこが平安京か？」と問われて、正確に答えられる人は少ないだろう。現在の京都と平安京の地図を重ね合わせると、その中心はかなりズレている。しかも平安京の風景は、そのほとんどが地下に眠っており、目にすることができない。だからこそこの古都は、旅人

を誘うバーチャルな遊び空間として今も生きており、私たちが飽きさせない。

意外なことに、平安京遷都にあたっては、二つの寺院を除いて建立が認められなかった。その二つとは、平安京の正門である羅城門を挟んで建てられた「東寺」と「西寺」である。東寺は時を超えて残り、西寺は地上から姿を消した。何が命運を分けたのか……探っていくと歴史の非情が見えてくる。

四〇〇年続いた平安京は、その間に大きく姿を変えている。かつて朽ち果てた羅城門は「鬼の棲むところ」と恐れられ、メインストリートだった道幅八四メートルの朱雀大路では牛が草を食んでいた……。さらに、明治維新によって都の地位をはく奪された後、失意から立ち上がろうとした京都人の底力を象徴する平安神宮や現代の景観論争に至るまで、このまちには平安京へのこだわりが底流として流れている。本書ではそれを移住者の目線で綴っていく。

（かつまた・いくこ）

ISBN978-4-7918-1293-3

6月末刊

四六並製 二二四頁＋カラー口絵四頁

予二四二〇円

著者 東京生まれ。国際基督教大学教養学部卒。フリージャーナリスト。1986～95年までバーレーン、ウィーン、ロンドンで暮らした後、東京を経て2019年に京都に移住。著書に『クルド・国なき民族のいま』（新評論）などがある。

答えのない教室

パート2

流山市立おおぐろの森中学校での教育実践

池田吉久 Arita Yoshikazu



「授業はこうでなくっちゃ!」

「考える力」を伸ばし、子ども達をワクワクドキドキさせる授業、その全貌を紹介!



本書書影

前川秀幸校長も太鼓判! ——「考える力」をはぐくみ、子ども達をワクワクドキドキさせる授業の全貌を大公開

答えのない教室 パート2

流山市立おおぐろの森中学校での教育実践

池田吉久

◆ジャンル: 教育

教師であれば誰しも、子どもたちがワクワクするような授業、一人ひとりが輝ける場面のある授業を行いたいと思っていることだろう。もちろん子どもたちも、時間を忘れて没頭できるような楽しい授業を望んでいるはずだ。保護者からすれば、そんな授業を楽しみに登校する我が子を見守るのがうれしに決まっている。

中学校の数学の授業で「思考力・判断力・表現力」を伸ばすにはどうしたらよいのかと悩んでいた時、ふと立ち寄った書店で手にしたのが『答えのない教室——3人で「考える」算数・数学の授業』（梅本卓也・有澤和歌子著、新評論、二〇二四年）という本であった。そこには、「考えること」を習慣化するための様々な仕掛けが紹介されていた。これこそ長年追いかけてきた、三つの力を伸ばす最適な方法だと感じ、すぐさま授業に取り入れてみた。

するとたちまち教室が笑顔で満たされた。3人ひと組になり、時間を忘れて

課題に取り組む生徒たち。教師はそれをそつと見守り、必要な時に必要な手助けをする。本書は、この「答えのない教室」アプローチの、ある市立中学校における実践の記録である。

失敗例も含めて「15の題材」（理科での実践例も掲載）を挙げ、授業の内容や進め方を決めた背景、教室の様子、そして授業を受けての生徒たちの感想なども紹介している。数学に苦手意識のあった生徒がその面白さや奥深さに開眼するさまに触れれば、教師も生徒も保護者も必ずや「こんな授業がいい!」と思うはずだ。日々の教授法に悩んでいる教師の方々だけでなく、数学や数学教育に関心のある多くの方に読んでいただければと願う。（いけだ・よしひさ）

ISBN978-4-7918-1291-9

5月末刊

四六並製 予二二〇頁 予二四二〇円

刊評 答えのない教室

「3人で「考える」算数・数学の授業」
好 梅本卓也・有澤和歌子

二四二〇円

著者 千葉県流山市公立学校教員。37年間多くの生徒と関わり、定年後、2022年から流山市立おおぐろの森中学校に再任用教員として勤務。「答えのない教室」の実践を通じて、一人でも多くの生徒に数学を好きになってもらうことが現在の目標。



アベノミクスを説明する安倍総理（右側、2013年9月20日の政労使会議を伝える首相官邸HPより）。政府は「三本の矢」（金融の異次元緩和、財政拡張、規制緩和）という虚構の成長政策をとった。

行政内部から主流派経済学の誤りを指摘し続けてきた著者が、誤謬の根源と有りうべき経済社会の道筋を戦後の歩みから析出

経済学と経済政策

戦後日本、その歩みの価値を求めて

石水喜夫

◆ジャンル：経済理論、経済政策、政治思想

危機に陥った社会には魔術師が登場する。かつてナチス・ドイツには宣伝相という大臣がおり、農民や労働者の心をつかんで強力な政権を作り出した。その人物、ヨーゼフ・ゲッベルスの演説に「農民は穀物の値上げ、労働者はパンの値下げ、パン屋と食品店はより大きな利益」というものがある。

片や我が国では、安倍総理が「経済の好循環実現に向けた政労使会議」（二〇一三年）を開催し、物価と賃金を引き上げるという途轍もない社会合意を生み出した。それまで政府は、賃金など労働条件の形成は、労使の自主的交渉によるもので、それを受けとめる立場を堅持していた。アベノミクスは「官製春闘」をその中心に抱き込んで、憲政最強の政治権力を生み出した。

リーマンショック（二〇〇八年）と東日本大震災の原子力災害（二〇一一年）は、近代産業文明の限界と成長経済の虚構を人々に突き付けていた。しかし、それを受けとめることは重苦しく、主流派経済学にも対処能力がない。高まる国民不安に、安倍総理は「三本の矢」（二〇一二年末）を力強く演説し、既存の政策技術を組み合わせれば、成長経済を取り

戻せると国民に魔法をかけた。

戦後日本は、ケインズ理論と現代憲法を礎に福祉国家建設の道へと歩み出した。しかし、一九八〇年代のネオリベリズム（新自由主義）の登場で経済学の逸脱が生じ、歴史の流れを見失って、今日に至っている。経済政策混乱の根源に、主流派経済学の誤りと政治思想の空白が横たわっていることを見抜かねばならない。

官庁エコノミストだった著者は、旧「労働白書」を通じて、行政内部から主流派の「構造改革」に挑み、新評論からは「ポスト構造改革の経済思想」（二〇〇九年）など三つの著作によって問題提起を続けてきた。本書はその第四弾であり、退官した著者が示す渾身の完結編である。（編集部）

ISBN978-4-7918-1290-2

四六上製 三五〇頁 三八五〇円

6月中旬刊

現代雇用政策の論理

（共著）

三五二〇円

市場中心主義への挑戦

（人口減少の衝撃と日本経済） 三五二〇円

ポスト構造改革の経済思想

二四二〇円

著者 元厚生労働省労働経済調査官。元京都大学教授。1965年生まれ。1989年に労働省入省。政策調査部、職業安定局、経済企画庁、厚生労働省労働政策担当参事官室などに勤務。官庁エコノミストとして一橋大学、大東文化大学など講師を兼務。退官して、2021年より京都橘大学経済学部教授。

大学での学びを

ハックする

ザカリー・シヨア／佐藤賢一訳

『21世紀のアカデミックスキル短期集中セミナー』五つのスキルがあなたを変え、全ての学生・研究者必読の書！

四六並製 二四八頁 二六四〇円

最新刊

ISBN978-4-7948-1285-8

大学での学びを
ハックする

増補2版

現代社会用語集

入江公康

世界／社会への解像度を上げ、明日に備えたい若者のバイブル、「戦争」など重要項目を加えた最新版！

四六並製 二四〇頁 一八七〇円

最新刊

ISBN978-4-7948-1288-9

現代社会
用語集

入江公康

世界／社会への解像度を上げる160の厳選キーワード解説のべ2万人以上が愛読した名物用語の増補版「戦争」など重要項目を加えたVer.2.5！

ジェンダー平等の
まちをつくる

太田美幸編

『東京都国立市の挑戦』「誰も排除しない社会」をつくるために取り組んだ施策の舞台裏を描く。

四六並製 二〇八頁 二四二〇円

『クーヨン』他紹介

ISBN978-4-7948-1282-7

ジェンダー平等の
まちをつくる

離島の光と影

波名城翔

『シマ』の観光と自殺 観光ブームに湧く離島を対象に、自殺予防対策の実態をインタビュー形式で紹介。

四六並製 二八〇頁 三〇八〇円

好評刊

ISBN978-4-7948-1281-0



大作物語

磯村元信編

『家かしんとい』子どもたちを支える社会的養護のリアル 貧困と孤立が広がる社会に「寄り添うこと」の意味を問う。

四六並製 二四〇頁 二四二〇円

好評刊

ISBN978-4-7948-1284-1



なんで学校は変なの？

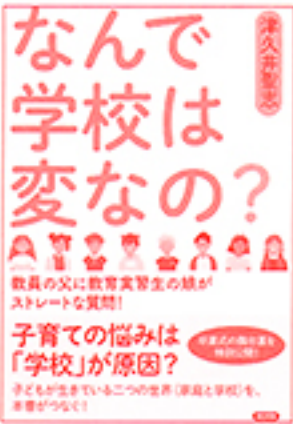
津久井聖志

『教員の父親に教育実習生の娘がストリートな質問！』学校のおかしさの本質に迫りつつ解決策を模索する。

四六並製 二〇八頁 二四二〇円

最新刊

ISBN978-4-7948-1286-5



福島県浪江町

原発被災を超えて新たな「まち」をつくる

関満博

震災14年、多重・複合災害により苦難を強いられ続ける住民の思いは今どこにあるのか。浪江町の歴史と現在を受け止めつつ、背景、復興状況、産業化の進展を注視。

ISBN978-4-7948-1283-1 近刊

A5上製 予六七二頁 九九〇〇円

著者 一九四八年生まれ。一橋大学名誉教授。博士（経済学）。『気仙沼』『震災復興から「未来」に向かう』『メイト・イン・ヒタチ 企業城下町日立地区と中小企業の未来』など著書・編著書多数。

アイルランドから東北へ

佐藤亨

『周縁と漂着の詩学』文学・民俗・歴史をよすがに、詩学的世界と現実世界を横断する故郷論。

四六上製 三二〇頁 三九六〇円

近刊

ISBN978-4-7948-1287-2



選挙ウォッチャーちだい『「NHKから国民を守る党」とは何だったのか?』

立花孝志を礼賛して増長させた責任ある面々

■評者 佐高 信 (評論家)

『日刊ゲンダイDIGITAL』2025年2月23日

兵庫県議会議員だった竹内英明を自殺に追い込んだ「NHKから国民を守る党」党首の立花孝志がなぜ捕まらないのかと思っている人は多いだろう。兵庫県知事選挙に立候補し、もっぱら現知事の齋藤元彦を応援した立花は、国会に出てこないガーシーを当選させた人物でもあった。

そんなトンデモナイ男の立花をホリエモンこと堀江貴文が絶賛してきた。

立花と正面から闘ってきた著者によれば、堀江は「立花さんは相当優秀な人物だ」と言い、「泡沫でも勝ちやすい参院比例や地方議会を狙い撃ちにする戦略がすごい」とか、「奇行に見えてもすべて計算ずくだ」「頭良すぎてヤバイ」と持ち上げてきた。

それによって「あのビジネスに長けたホリエモンが言うのだから」「立花は実はイロモノではなく、切れ者」などという評価が流布してしまったという。

しかし、堀江と立花は双生児のように似通ったヤバイイロモノである。そんな堀江を田原総一郎や竹中平蔵、それに茂木健一郎らが礼賛して増長させた。今度の立花騒動に田原たちも責任がある。2019年夏にマッコ・デラックスがN党を「気持ち悪い」「ちよつと宗教的な感じもある」と批判し、激高した立花が「マッコ・デラックスをぶつ壊す!」と叫ぶといった騒ぎもあったが、田原や竹中はマッコを見習えと言いたい。

立花は自らが代表となって「ホリエモン新党」を発足させたが、

もちろん、堀江の次のような指摘にも賛成しているのだろう。

堀江は「稼ぐが勝ち」(光文社)で、こう書いている。

「誤解を恐れずに言えば、人の心はお金で買えるのです。女はお金についてきます。僕がこう言うのと、『そうなんだよね』と言う人でも本当に理解しているかは疑問です。例えばビジネスで成功して大金を手に入れた瞬間に、『どうして口説けないだろうな』と思っていたネエちゃんを口説くことができたりする。その後は芋づる式です。要するにネエちゃんの話聞いた女の子たちが集まってくるわけです」

これほど女をバカにした発言もないだろう。私は「女に選挙権は要らない」と主張したビートたけ

しを連想したが、こんな下卑たたけしやホリエモンが連日のようにテレビに出て、少しでも政権批判をするコメントーターは退場させられる。おかしいのはフジテレビだけではない。堀江は立花を「政界の秋元康」と称賛したこともあるが、秋元も堀江や立花の仲間なのか?

ISBN978-4-7948-1197-1
四六並製 二六〇頁 一六五〇円

「NHKから国民を守る党」とは何だったのか?

選挙ウォッチャーちだい

兵庫県政崩壊でその反社ぶりが加速する今、デマや「選挙ハック」に踊らされないための必読書。

四六並製 二六〇頁 一六五〇円

電子書籍も好評発売中
ISBN978-4-7948-1197-1

NHKから国民を守る党とは何だったのか?

選挙ウォッチャーちだい

皮を被った反社カルト

政治の裏側を暴く

選挙ウォッチャーちだい

本を売る

再読の効用

このあいだ知人に、「同じ本を何回も読むより新しい本を読んだ方が面白いよ」と言われました。なるほど、たしかにそうかもしれない。新しい本の一ページ目を開く高揚感、一行目を読む瞬間の楽しさは何事にも代えがたいし、そこから惹きこまれて数時間があったという間に過ぎ去ったときなど、その嬉しさを誰かと共有したくなります。そんなふうに言うと、「ほら、一度読んだ本にはそういう類の喜びがないじゃないか」というダメ押しの声が聞こえてきそうです。これはあくまで私の経験上の話ですが、その喜びを享受できるのは心の状態が良好なときに限られています。もう少し控えめにいえば、最大限楽しむことができない場合がある、ということです。未読の本が秘める力は計り知れません。そんな未知の世界に踏み込むためにはこちらにも相応のコンディションが求められます。ですが、ひとは様々なことで心のバランスを崩してしまいます。不意

に過去が覆い被さってきて窒息しそうになったり、いらぬことを言ってしまったのではないかと深夜に不安になったり、誤った選択をする自分を想像して叫び出したくなったり。

そういう心の余裕がないときは私は、過去に読んだ本を読み返したくなるのです。そこには新しい本を読むときのような興奮はないかもしれない。でも、やすらぎがある。過去にその本を読んだときの気持ちや、そのころ営んでいた生活が思い出されるのです。辛かった日々や心温かく過ごした日々の中で、その傍らに在り続けた本のこと。どのような感情にせよ、乗り越えてきたことに変わりはなく、その轍を見返しながらページを捲ること。あのときふれた一つの言葉、一つの文章が染み入ってくる。生活と文章が重なる瞬間は驚くほどの安心を与えてくれる。そうしてまた、元気になったら新しい本を読み、安心の貯水池をい로운場所に作っていったらと、そう思うのです。

紀伊國屋書店新宿本店

鳥羽遼太郎

本誌表示価格はすべて税込です。

書評日誌(12・18~1・23)

◎書評 ◎紹介 ◎関連記事

- 12・18 ⑩中日新聞『虐待被害者という勿れ』(名古屋写真展取材)
- 12・21 ⑩図書新聞・24年下半期読書アンケート『私たちはどこにいるのか?』(結城正美)
- 12・23 ⑩週刊ニューズウィーク日本版『山谷をめぐる旅』(印南敦史)
- 12・24 ⑩週刊SPA!『「NHKから国民を守る党」とは何だったのか?』著者コメント
- 12・26 ⑩週刊文春『「NHKから国民を守る党」とは何だったのか?』著者コメント
- 12月号 ⑩メディアあさひかわ『「学校小説」の残光と残影』(著者談)
- 2024年冬号 ⑩この本読んで!『さいごのさよなら』

2024winter ⑩中学生版BOOK TRAIN『ヴィンデビー・パズル』(千代田区立図書館)

1・5 ⑩東京新聞(日曜版)『100年前から見た21世紀の日本』本文より概略引用

1・23 ⑩社会新報『山谷をめぐる旅』(田沢竜次)

【ニューズウィーク日本版紹介】
ISBN978-4-7948-1276-6



訪問看護師として働きながら、この街の「生き死に」を見つめ続けてきた著者による同時代の記録。写真約120点収録。四六並製 二七二頁 二六四〇円

織田忍

山谷をめぐる旅

本を読む

「NHKから国民を守る党」

とは何だったのか？

著者の取材力と文章力、ユーモア、正義感、倫理観、どれも一級品であると感じました。NHKと、それを許してきてしまったメディアは、この本を読んで反省してほしいと思いました。貴社は気骨のある出版社だと思います。続刊を期待しております。頑張ってください。(掛川市 会社員 鈴木大輔 42歳)

新大学原論

岡山・白石岡先生の大学についてのユニークな洞察に教えられることが多かったです。「中世の大学」について、私たちはなにも知らなかったもので、勉強になりました。(水戸市 フランス語教師 木村仁志 45歳)

「増補改訂版」ノンフオーマル教育

の可能性

これですよ、社会を変えられるのは。ちらほらユニークな実践が行われているということは報道な

どで見かけます。でも、ここまで網羅的に紹介している本は他にないでしょう。辞書としても使えますし(索引が欲しかった)、デザイン的重要性も知りました。たびたび聞くことになりそうな希望の書。新春から良い本に出会いました。(三次市 下光博之)

ひとりじゃないよ

本屋さんでなんとなく手に取りました。地球上の一体感を感じられる絵本で、小1の子とも一緒に読みたいと思いました。切り絵のようなイラストも立体感があり、お話と合っていて不思議な印象でした。出会えて良かったです。(浦安市 村内このみ 39歳)

好評刊

新大学原論

岡山 茂・白石嘉治

二四二〇円

「増補改訂版」ノンフオーマル教育の可能性

リアルな生活に根ざす教育

三三〇〇円

ひとりじゃないよ

エリン・ケルシー(文)/ソイアン・キム(絵) 光橋翠訳 一七六〇円

編集部から

「NHKから国民を守る党」とは何だったのか？(3刷)の著者選挙ウオッチャーちだいさんが、「日隅(ひすみ)一雄・情報流通促進賞2025特別賞」を受賞しました！8年越しでN国党代表・立花孝志被告(執行猶予中)と支持者たちの自称「政治活動」を取材し、その反社会性・カルト性に警鐘を鳴らし続けてきた姿勢が顕彰されたものです。審査にあたっては常に情報の公益性が重視され、一昨年は自民党の「統一教会汚染」を追った鈴木エイト氏(特別賞)、昨年は同党の「裏金問題」を追及した「しんぶん赤旗日曜版」と上脇博之氏(大賞)が選ばれました。卑劣な攻撃に屈することなく、市民が知るべき情報を発信し続けてくれるジャーナリストにふさわしい栄誉です。現在準備中の続編を含め、これからも著者と「N国本」へのご支援をお願いいたします！

営業部から

▼直近3ヶ月(2025年1月~3月)弊社のアマゾン売上ベスト15をご紹介します。

- ①「NHKから国民を守る党」
とは何だったのか？
- ②おやつギャグつめあわせ
- ③たった一つを変えるだけ
- ④答えのない教室
- ⑤ひとつからはじめよう
- ⑥感情と社会性を育む学び(SEL)
- ⑦ギヴァー 記憶を注ぐ者
- ⑧ぼくは にんげん
- ⑨食べる？
- ⑩食品セシウム測定データ745
- ⑪虚構の「近代」
- ⑫もうひとつの学校
- ⑬アエネーイス
- ⑭スウェーデンの
- ⑮小学校社会科の教科書を読む

SBC(新評論ブッククラブ)のご案内

会員は送料無料！各種特典あり！お申し込みを！

当クラブ(一九九九年発足)は入会金・年会費なしで、会員の方々に弊社の出版活動内容を紹介する月刊PR誌「新評論」を定期的にご送付しております。入会登録後、弊社商品に添付された読者アンケートハガキを累計5枚お送りいただくことで、全商品の中からご希望の本を1冊無料進呈する特典もございます。ご入会希望の方は小社HPフォームからお送りいただくか、メールまたはハガキにてお名前、郵便番号、ご住所、電話番号を明記のうえ、弊社宛にお申し込みください。折り返し、SBC発行の「入会確認証」をお送りいたします。